

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼には必ず理念を唱和するなどして、職員全員で意識し、地域密着型サービスとしての自覚をもち、取り組んでいる。	朝礼や月1回行われている職員会議で管理者は理念や方針を伝え再確認している。また「一人ひとりの気持ちを大切に」の目標を持って実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月、園内の様子を回覧板を利用して地域の方々にお知らせしたり、小学校、児童館、保育園との交流も行っている。また、近くの公園への散歩や、ゴミ出し、近所のお菓子屋さんへの買い物などを通して地域との関わりを持っている。	保育園、小学校、児童館との交流が年間通して行われている。毎月「敬老園便り」を小学校、児童館、保育園、千曲市上山田庁舎、近所に配布している。地区の総会で認知症の話をして理解と交流を深めている。エコキャップ運動で地域ともふれあっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解や、グループホームについて回覧板で発信をしたり、地区の総会では認知症について話しをさせていただいている。また、人材育成として実習生の受け入れも積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回は、必ず開催しており、利用者状況や活動報告をし、意見交換を行っている。委員の方から、ボランティアを紹介していただいたり、広報誌などについて、意見をいただき反映している。	会議は2ヶ月ごとに開催されている。利用状況、活動報告、今後の予定、認知症対応通所介護について、また、「新型インフルエンザ」などその時点で話し合わなければならない事項を議題に実施されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員としても参加していたので、事業所の実状等を理解していただいております、連携を深めている。	市の職員は運営推進会議の委員としてその都度参加している。運営推進会議に参加の職員は地域包括支援センターの頃からの関わりもあり、あらゆる相談をしている。市主催の介護福祉施設の部会もあり、情報を得たり、助言もいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に身体拘束廃止委員会があり、研修や勉強会を開催している。事業所内でも実施し、職員の共有認識を図っている。	法人内に「身体拘束委員会」があり、ホームからも委員として職員が出席し、会議での話し合いや議事録をファイルにし全職員が閲覧、情報を共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内に高齢者虐待防止委員会が設置されており、研修や勉強会を開催している。事業所内でも実施し、職員の共有認識を図っている。		

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や成年後見制度について、研修会等で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の説明等詳しく行い、納得した上で、契約の手続きを進めている。4月の介護報酬の改定の際には、家族会を開催し、納得をしていただいたうえで、新たに同意書をいただいた。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は、介護相談員や運営推進会議の場で、意見や思いを伝えている。 ご家族には、手紙、電話、面会時や、家族会等で常に問いかけ、何でも言ってもらえるようにしている。出された意見要望は、職員会議で話し合い、反映させている。	入居者家族の来訪時や家族会で気軽に意見、要望がいただけるように心がけている。介護相談員も定期的に訪問している。出された意見や要望は直ちに話し合い、検討し、運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、全体ミーティングや個別面談にて意見を聞き、運営に反映させている。	職員はその場で気づいたことを管理者につなげている。職員の個別面談が目標管理シートをもとに年3回行われており仕事上の悩みや課題について話し合いが行われている。管理者から職員への日常業務での話しかけもあり、意思疎通も円滑な、良好な関係が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業計画の中で、業務改善を推進し環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は法人内で年5回の基礎研修を実施している。また、各自、目標管理シートを作成し、資格取得等に向けて年間計画を立て、面談をしながら進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内に連絡会があり、経営者、施設長、管理者間での交流の機会はあるが、相互研修までには至っていない。		

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始以前に本人、家族と面会を行い、本人自身の訴えや願いをよく聴き、受け止めるよう努めている。また、利用者によっては、通所で利用していただき、安心を確保できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の思いや体験をしっかりと受けとめ、また、サービスの利用状況などをうかがう中で、どのような対応が出来るのか、話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族には園内の見学や、レクリエーションの時間などに来園して頂き、サービスの利用につながるのかを体感していただいている。早急な対応が必要な場合には、他事業所を紹介するなどの柔軟な対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜び等を知ること努め、共に支えあえる関係作りに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日々の様子や変化等は、家族に報告をし、共有して支援の方法、対応について意見を交換している。また、行事などの開催予定を家族に通知し、一緒に関わる場を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	友人や、ご近所の方の来園があったり、行きつけだった蕎麦屋や、ラーメン屋に出掛けるなどの支援をしている。	家族の都合の良い日に日帰りで自宅に帰る入居者もいる。馴染みの蕎麦屋に行くと本人は忘れていてもお店の人が覚えており「何時もあの席が指定席」と声をかけてもらっている。本人が忘れていても馴染みの場所や人との関係が続くよう家族と相談しながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団の中にいることが苦手な利用者には、場所を変えたり、職員が寄り添い対応をするなど、利用者同士の関係や力、性格や個性を配慮しながら支援している。		

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今まで、住み替えられた方はいらっしゃらないが、家族がボランティアで来園して下さるなど、関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族、関係者からの聞き取りを行うなどし、情報を得るようにしている。また、日常のなにげない会話で得たものを記録に残し、共有している。	日々の行動や表情から思いを汲み取って支援している。意思疎通が困難な入居者については家族等からの情報を得ながら本人の思いに沿えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントツールで情報を収集したり、ご本人やご家族、居宅CMIに尋ねたりしながら、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課表や、介護記録、勤務交代時での申し送りによって、その方の心身状態を把握し、その日のケアに活かしている。毎月、スタッフ会議を実施し、それぞれの暮らし方とそのためへの支援を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族からの聴き取りをはじめ、主治医などの関係者と随時話し合い、希望や馴染みの暮らし方を基本に、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者は本人・家族から思いや意向を聞いて原案を作成し、担当職員や他の職員とも話し合い介護計画を完成させている。モニタリングや見直しも本人の状況を見ながら、全職員で意見を出し合い行なわれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や気づき、本人の言葉、身体状況、食事量などを個別記録に残し、職員間で情報を共有している。これらの情報を基に介護計画の見直しや評価を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族への食事提供や、通所では時間延長、緊急時の宿泊など、本人、家族の状況に応じて必要な支援は柔軟に対応している。		

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	関係の深かった御近所の方や、同級生、老人クラブの方の来園をはじめ、運営推進委員や介護相談員の方々との情報交換や、意見交換をし、協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族と話し合い、希望するかかりつけ医としている。基本的には家族同行の受診となっているが、不可能な時や、緊急時には職員が代行している。	本人、家族の希望により囑託医がかかりつけ医となっている。訪問時も月1回の健康診断が行なわれていた。入院が必要な場合に近くの病院を利用できるよう協力医療機関との提携関係も整備されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師一名を配置し、介護職と共に利用者の日常の健康管理に努め、必要があれば適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、医療関係者と十分に情報交換をし、少しでも早期退院が出来るよう努めている。また、ご家族との連絡も密にしながら、退院後も安心して生活ができるように努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を説明し、同意をいただいている。また、随時意志を確認しながら取り組んでいる。	昨年末にお一人をお見送りしている。看取りに関しては本人や家族の意向に沿う支援を提供している。どこまでの支援が出来るか見極めながら、家族、医療関係者と連携を取り、全職員で話し合い対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、消防署員から救急法とAEDの使用方法を学び、実施訓練を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の基、防災訓練を実施し、迅速な避難が出来るよう努めている。また、有事の際には、ご近所や運営推進委員の協力を得られるようお願いをしている。	春は消防署立ち会いで、秋はホーム主体で近隣の方の協力をいただきながら防災避難訓練を行っている。自治会の消防訓練にも参加している。運営委員会でも「何分で駆けつけることができるか」話し合いをしている。救急法、AEDの実地訓練も毎年1回行なわれている。	夜勤時の火元確認、火元場所別の避難方法などを検討し、安全に避難(自然災害も含めた)が出来るような対策を期待したい。

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの気持ちやおもいを大切に、さりげない言葉かけや、ケアをするように努めている。	トイレ誘導については耳もとで囁くなど、職員が入居者にかかる言葉には年長者を敬う自然な声かけがされていた。望ましくない言動について、全体で考えなければならない場合には職員会議の議題として取り上げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションなどでは、一方的に押しつけるのではなく、意思確認をしている。意志表示が困難な方には、職員の言葉掛けや、表情、しぐさなどから読み取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調などに配慮したケアをしている。買い物などの外出希望には、すぐに対応できない場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容院の方に来園してもらい、カットや、パーマ、毛染めや髪結いをお願いしている。希望があれば、出掛けていく場合もある。今までの習慣で、毎朝、手鏡に向かい化粧水や乳液を使用している方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付け、掃除等を一緒に行っている。週間メニュー表をカラー写真で掲示したり、季節の野菜を中庭で栽培するなどして、食への楽しさを提供している。	法人の管理栄養士により作成された献立表が毎食カラーで撮られ印刷され、入居者の食卓に張られている。食事を準備する匂いと調理をする音が十分に五感を刺激し食欲を高めている。盛り付けを手伝う入居者の姿も見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人本部の栄養課にて季節の食材をメニューに取り入れ、栄養バランスに配慮している。嗜好品や、体調にあわせてメニューを変えるなどの工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を学び、ご自分で出来る方には声掛けや、見守りをし、支援が必要な方には義歯を外すなどして、毎食後、口腔内の清潔に努めている。		

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り、トイレでの排泄に努めている。排泄表を活用したり、パット、紙パンツなど、時間帯で使い分けをしている。	排泄表が使用され、入居者一人ひとりのパターンが把握されており、1日をリハビリパンツやパットなどで使い分け、排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、体操を行っている。食間での水分補給や、牛乳、ヨーグルトなどを献立に取り入れるなど、予防に努めている。場合によっては主治医と相談し対応することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者どうし、誘って入浴する時もあったり、入浴を嫌がる利用者には、無理をせずに足浴や清拭など、臨機応変な対応をしている。	かけ流しの天然温泉でいつでも入浴ができる。一人でゆっくりと楽しむ方や入居者同士で誘い合っでの入浴、しもやけ防止の足浴、清拭など一人ひとりに合わせた支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活のペースや体調に合わせて午睡をしたり、寝つけない時には、ホットミルクを飲んでいただくなどの配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋をファイルに保管し、全職員が分かるよう徹底している。服薬の拒否がある方には、日課表にチェックを入れ、主治医や家族と相談しながら対応をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の能力や得意なことを把握し、一人一人の力を発揮してもらえるような仕事をお願いし、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	隣のお菓子屋さんへ買い物に行ったり、喫茶店や、馴染みのそば屋に出掛けるなどしている。また、歩行困難な方は、車椅子にて公園まで散歩にでたり、中庭の花壇を眺めたり、日光浴をしていただいている。	隣の菓子屋さんへの買い物、近くでの散歩、庭での日光浴など外気に触れる機会をつくり、気分転換も図りながら個別に支援を行なっている。お花見、外食、りんご狩り等にも出かけている。	

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を所持し、散髪代や、紙パンツの代金などを支払う方もいる。家族等よりお金を預かり、事務所で管理している人でも、預かり金からおやつ代を支払ってもらうなどの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという要望があれば、いつでも電話を自宅等につないでいる。また、年賀状や葉書が届き、返事を出したいという方には手紙を出す支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから見える中庭には植木や花壇を造り、自宅と変わらない雰囲気配慮している。玄関には地域の民芸品を装飾したり、廊下には行事の写真や、利用者の写生画を飾るなどして、親しみやすい環境を整えている。	玄関ホールは吹き抜けの高い天井で、以前の料亭そのままを残した造りから粋な感じが漂っている。居間続きの座敷の床の間には大皿、大花瓶、掛け軸など豪華な飾り物がみられる。南側は全面透明なガラス戸で、小春日和の暖かな日差しを浴びて入居者が終日過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのリクライニングチェアや、座敷の掘こたつ、一人掛けの読書スペースがあったり、気のあった仲間とくつろげる廊下のソファなど、一人から数人がくつろげるスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との写真やアルバム、愛用の寝具、仏壇などの馴染みの物が持ち込まれ、自宅にいるような雰囲気作りに努めている。	持参した仏壇と筆筒だけの簡素な雰囲気を好む入居者、壁に色々な作品を飾ったり、衣装ハンガーにお気に入りの衣類を多数かける方など、思い思いの、居心地の良い居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口にその方が大好きな花の写真を貼り、自室がわかるようにしたり、身体状況に合わせて物の配置変更や撤去、トイレ、廊下、浴室に手すりを増設するなどの、環境整備に努めている。		